

## 社外役員メッセージ



渡邊 元

取締役(社外)

**(重要な兼職の状況)**

渡辺パイプ株式会社代表取締役会長

セコムの社外取締役に就任して7年が経ちました。いわゆる日本のコーポレートガバナンス改革が言われ始めて10年ほど経過しますが、その間に社外役員の役割がより明確になり、セコムにおいても着実にその機能が果たされつつあるように感じています。しがらみのない社外取締役だからこそ、取締役会では忖度なしに自由に発言させていただいています。時には社内取締役の背中を押すということなども社外取締役が果たすべき役割だと考えています。また、事前に資料が配信され、十分に理解を深めた上で取締役会に臨むことができるようになり、社外取締役・社外監査役が自由闊達な意見や提言をより活発に行うなど、年を追うごとに本質的な議論がなされるように改善が進められてきたと感じています。それらの結果、取締役会の実効性は着実に高まっていると思います。

近年、人口減少や自然災害の激甚化、治安の悪化などの社会環境の変化が著しく、「安全・安心」に対するニーズが多様化しており、セコムにとって社会的責任の重さとともに成長の機会が広がっていると感じています。日本におけるサブスクリプションモデルの先駆けであるセコムのオンライン・セキュリティシステムは、「安全・安心」の社会インフラとして不可欠な素晴らしいビジネスモデルですが、慢心せずさらに磨

き上げていくこと、そして新しいビジネスチャンスを開拓していくことが大切だと考えています。私も全国レベルで生活インフラを供給する企業を長年にわたり経営してきましたが、社外取締役として私の知見は「第一にお客様本位」ということです。それを経営で実践するには、お客様に一番近い現場の社員の声を最大限活用することが重要だと考えています。セコムの取締役会では、セコムが新たなビジネスチャンスをとらえ、さらなる発展を実現していくために不可欠な現場運営や組織の活性化に関する助言や提言を積極的にさせていただきます。

セコムが今後とも持続的に成長していくには、人財戦略が重要だと考えています。セコムは信用・信頼のブランドであり、それは社員一人ひとりの日々の行動の中で培っていくものでしっかり守り、高めていかななくてはなりません。また、創業以来のチャレンジ精神や創造性・革新性といったセコムのDNAも同様です。給与や福利厚生の見直しや拡充は、将来のための投資であり、今後ともさらに手厚くしていくことで女性を含む優秀な人財の拡充と社員のエンゲージメントの向上につながっていくと思います。

将来に向けた成長投資に非常に積極的に取り組んでいることを評価しています。最近で言えば5月の米SaaS企業への出資は、最新技術を導入した新たなサービス・商品の開発に向けて有意義なものになると期待しています。今後とも強固な財務基盤を生かし、人財投資や設備投資、M&Aなどの将来を見据えた成長投資を継続していくべきだと思います。一方、セコムグループの中には各業界をリードする優良企業が多くありますが、グループ間のシナジーという面では成長余地がまだまだ大きいと感じています。今後、さらに横断的な機能を強化し、連携を深めることで新たなビジネスチャンスを創出できるはずです。また、テクノロジーが物凄いスピードで進化する現代、近年取り組んでいるオープンイノベーションをさらに積極的に推進すべきだと思います。

今後とも社外取締役として、中長期的な目線で社会、顧客、社員、株主などステークホルダーに報いることができるよう企業価値の向上に貢献していきたいと思っています。